志津南 10月号 news

志津南ホームページ
http://shizu373.net

志津南学区の人口（8/31 現在）
世帯数 2,390　総人口 6,478 人
発　行
志津南学区まちづくり協議会
Tel(fax) 077-563-6206
E-mail shizuminamimachi@gmail.com

追分南自主防災会

南消防署で消火訓練実施
消火栓・消防ホース取り扱い学ぶ

消防ホースを使って訓練する参加者

追分南自主防災会（前田武憲会長）は8月30日、湖南消防局南消防署で、消防ホースによる消火訓練を実施しました。

各組自主防災委員から21人の会員が参加し、消火栓・消防ホースの取り扱い・消火器による初期消火対応等を消防隊員の方々から指導していただきました。

当日は気温32℃を超える猛暑の中でしたが、コロナ禍における対策として、屋外での訓練となりました。参加していただいた自主防災委員の皆様、ありがとうございました。

また、幼稚園や小学生の子どもも参加しており、貴重な経験になったのではと思います。

次回は起震車を誘致し、地震対策訓練を実施する事で、多くの会員に防災対策の場を提供したいと考えています。

住みやすい町内維持に汗流す

小雨の中行われた環境整備活動

追分南町内会（前田武憲会長）は、9月6日、第二回環境整備を実施しました。

最大級の警戒が必要とされる台風10号が東シナ海を九州へと北上する中、追分南町内会351戸の会員が参加しました。日頃できない町内5カ所の公園や里道の整備、かがやき通り通学路整備を中心に、2時間ほどの環境整備活動に汗を流しました。

開始より30分程で、小雨が降りだし、作業しにくい状況となりましたが、最後まで各組の皆様にご協力いただき、事故なく無事に終える事が出来ました。

当日参加いただいた会員や組長の皆様、ご協力を賜りました関係者の皆様、ありがとうございました。

住みやすい町内の維持に努めるべく、役員一同汗をかいてまいる所存ですので、今後とも町内事業へのご協力をお願い致します。

ペットボトルツリーの試作品

志津南学区ふれあい推進委員会（山元泰宏委員長）は、今年度の事業としてペットボトルを使って「しづみナリエ」を開催します。

9月26日に同委員会を開催、台風やコロナ対応で3年続けて中止となったふれあいまつりのあり方について意見交換を行いました。

宅地開発が進んで人口増も懸念される中、リスクを避け、夏から秋に、夜から昼への見直しを行い準備を進めていた矢先、コロナにより中止に至りましたが、令和3年度はまつりの内容見直しを行った上、計画通り秋に、若草中央公園で開催することを決めました。

今年度はまつりに代わり、子ども達に楽しい思い出をと、志津南小学校地域協働合校とのコラボで「しづみナリエ」の開催を計画しています。5・6年生児童にペットボトルにメッセージを書いてもらい、委員会でツリーを作成します。

志津南まちづくりセンター玄関付近に11月2日から21日まで設置、18時から21時まで点灯し、地域の皆さんに観ていただく予定です。

センター利用制限　緩和の方向へ

志津南まちづくりセンターでは、6月1日以降3密対策前提のもと、段階的に利用制限が緩和されてきました。9月は8月と同様の措置がとられてきましたが、10月1日から11月末までについて、感染防止対策を講じた上、人数制限収容率50%から100%に緩和されました。

検温、消毒、マスク着用は必須でご利用ください。9月12日から玄関に自動検温装置＝写真＝を設置しました。靴のまま所定位置に立つと自動で検温されます。必ず検温、消毒の上入館してください。

地域活動と経済活動、新型コロナイウルス感染対策との両立を図ることが大切で、日頃の感染対策を徹底の上、管理運営していきます。

お詫びと訂正

志津南ニュース第205号の一面「社会実験」の実施時間が間違っていました。

正しくは午前7時30分〜午前9時00分です。

お詫びして訂正します。

福祉セミナー

コロナ対策万全で開催

３密に配慮された会場で熱心に聞く参加者

志津南学区社会福祉協議会福祉部会（大澤良三部長）は9月5日、まちづくりセンターで令和2年度福祉セミナーを開催しました。

今回は、草津市健康福祉部、草津市社会福祉協議会、高穂地域包括支援センターとの協働の開催です。コロナ禍における会議とあって草津市の指導の下、コロナ感染症に最大の注意を図り、参加者は全員マスク着用と体温測定をし、安全に開くことに努めました。

まちづくり協議会高田会長はじめ、各町内会会長、草津市健康福祉部、市内介護事業者代表など、多くの参加者がありました。学区社協からは各町内会の社会福祉委員など41人が参加しました。

今年度は「福祉活動講演」「医療福祉を考える会議」の二つのテーマに取り組みました。

第一部では、愛東町で共生社会に取り組む「あいとうふくしモール」代表太田清蔵さんから、取り組み事例を中心に「みんなで笑える字(あざ)づくり」について講演をしていただきました。

昨今社会的問題として取り上げられることが増えてきた高齢者の居場所づくりとして「陽（ひ）だまりの場所」を経営しています。ここは「介護が必要な人たちの場所」「誰もが自由に集まれる場所」「もちつもたれつ活動の事務局」の三つのグループからなり、それぞれが有機的に繋がるモールとして設立されました。

第二部では、草津市が進める、高齢化にむけて地域における支え合いの仕組みである「学区の医療福祉を考える会議」について説明を聞きました。まず、草津市長寿いきがい課中井ゆかりさんが、会議の目的を分かりやすく説明しました。その後、草津市社会福祉協議会田中直樹さんより、会議の進め方について説明がありました。

本来なら質疑応答を受けるところですが、感染防止への配慮から、参加者一人一人にアンケートとこの会議への質問を記入してもらい、閉式としました。

最後に、本セミナーを開催するにあたり、三密防止のご指導と手指洗浄剤など援助をしていただいた草津市、草津市社会福祉協議会の皆様、また介護施設など訪問していただいた地域包括支援センターの方々、まちづくり協議会理事会、志津南学区民生委員児童委員、各町内社会福祉委員、各町福祉委員などの皆さまには、多大なご協力を賜りましたことを深く感謝するとともにお礼申し上げます。（志津南学区社協会長　上田恒章）

若草文庫

まちと歩んで35年

本を借りに来た子どもと文庫スタッフ

35年もの長い間続いている若草文庫について、その生い立ちを記してみました。

ここ若草地区は、37年ほど前にまちが始まりました。当時、若い入居者が多く、小さい子どもたちもどんどん増えました。そんな中、一人の住民の方が自宅で「子ども文庫」を開いてくれました。一年後、若草三丁目に最初の集会所である「若草第三集会所」ができたのを機に、その活動を引き継ぎ「若草文庫」が新たに誕生しました。

20人余のお母さんボランティアが毎週月・水曜日の午後に文庫を開き、草津市立図書館の「まわり文庫活動」に参加したことから、多い時には一日で１００人もの子どもたちが本を借りに来ました。

「まわり文庫活動」とは、三カ月ごとに３００冊の本が、市内13カ所で活動している文庫を回ってくれる仕組みで、いつも新しい本が並んでいる印象でした。

また、私的・公的に本の寄付もあり恒常的に本の冊数も増えていきました。

志津南小学校も昭和62年開校しましたが、図書室の本がなかなか充実しなかった中で、若草文庫は大盛況。七夕会、クリスマス会など季節の行事も取り入れてにぎやかな日々が流れました。

しかし、「まわり文庫活動」が中止となり、書架の本が固定化すると若草文庫へ来る子どもたちも減ってきました。もっと活用をしてほしいと、本の一部を小学校図書室へ寄付をしました。

また、町内全体の子ども減少が進みボランティアも解散しましたが、その後も少人数で水曜日のみの活動を続けました。

しばらくして志津南学区社協の傘下に入り現在に至っています。今はまた子どもが増えて、ボランティア5人に大学生のお兄さんも加わり、本の貸し出し、季節の行事、隣接の児童遊園での遊びなど、にぎやかな活動になっています。

また、草津市子育て支援事業の呼びかけに応じ、子育て支援「どんぐりクラブ」も平成19年から同場所で活動を開始、小学生に交じり小さな子どもも元気に遊んでいます。

現在、若草文庫には二千冊以上の本が並び、また社協の補助で本屋大賞などの新刊書も、年間数冊入ります。毎週水曜日の14時から17時まで貸し出しをしていますので、是非お立ち寄りください。

（村井由美子）

アップリケ・刺しゅう

一枚の絵

夢の音色

はじめて〝西村計雄画伯〟の
絵をみた時の衝撃！
その発想力、表現に魅了されて
絵の中にすいこまれるような気持ちになり、
無心に思いのままに布と糸にたくした
私という空想の世界

（創作手芸作家　三尾三紀子）

南っこリレー大会に向けて

運動場でバトン練習をする児童たち

志津南小学校（水野晃校長）では、近く予定されているリレー大会に向けて、連日子ども達が練習に励んでいます。

今年度は運動会に代わり、9月29日に偶数学年、10月1日に奇数学年が南っこリレー大会を実施します。熱中症や感染症に配慮し、学年ごとに時間帯を分けた形で行われます。

二学期が始まったものの例年通りにできないことが多く、目標が定まらない中での生活に、少し疲れが見え隠れしていた子どもたちも、目標を見つけ、本番に向けて一生懸命練習に励んでいます。

先日は、Web会議システムを利用して、六年生の応援リーダーによる応援練習が行われました。

応援練習をする６年生リーダー

コロナウイルス感染症への対策として、ソーシャルディスタンスが謳われるようになって半年ほど経ちますが、リレーの練習や友だちの頑張りを応援することを通じて、心のつながりを深めてほしいと願っています。

わくわく絵本

デザインあ　あなのほん

NHKエデュケーショナル　企画・制作　小学館

NHK Eテレの「デザインあ」をご存知でしょうか。今回は、映像のプロ集団が作ったかわいい絵本を紹介しましょう。

「なんのあな?」と見開き2ページで出題、次の2ページで回答。クリアな写真と「〇〇するあな」のわかりやすい説明で、日ごろ全然意識していない穴の秘められたおもしろさが発見できます。（大人は再認識ですね。）読み終わる頃には、子ども達の目があなを探し出そうと輝いているのがわかります。裏表紙のあなも見落とさないように気をつけてくださいね。

この本、図書館では児童書のコーナーに並んでいない場合も多いので、借りる時には司書の方に助けてもらいましょう。

【ポイント】ヒントを用意してテンポ良く　穴の形（シルエット）だけでは、わかりそうでわからない。なので、特徴を捉えたヒントを用意して、テンポ良く進むと、大勢でも楽しめます。（中西ひとみ）

ハート♡デイ　元気に おはようございます

志津南学区民生委員児童委員協議会（浅野謙一会長）は、志津南小学校の挨拶運動ハートデイに参加して子どもたちと元気な挨拶を交わしています＝写真。「おはようございます」と。

志津南小は毎月第2水曜日にハートデイが実施され、当日は、安全パトロールのメンバー、志津南学区青少年育成委員会も参加します。

民生委員の一部は安全にと、追分南方面から子どもたちの分団につき添い、見守りながら一緒に登校しています。

校門前では子どもたちに「おはようございます」と声掛け。子どもたちからも大きな声で「おはようございます」と挨拶が返ってきます。「今日もファイト」と応援したくなります。

コロナ感染症で休校になり、学校再開になっても分散登校が続きました。今は通常に戻りましたが、毎日元気で安心・安全に登校できるよう、子どもたちを見守り続けていきたいと思います。

困ったときの電話帳　高齢者宅に配布

配布された電話帳

志津南学区民生委員児童委員協議会は、安心・安全に役立つよう「困ったときの電話帳」を作成し、70歳以上の647世帯に安否確認を兼ねて訪問配布活動を実施しました＝写真。

今年度版の表には、緊急時の連絡先や各行政機関、医療機関、そしてコロナウイルス感染症相談窓口、タクシー会社3社の連絡先を新しく追加しました。

また、高穂地域包括支援センターの役割についても掲載しました。

裏には介護施設等のほか、地震時一次集合場所や避難場所を地図上で分かりやすく表示しています。

これまでに配布した訪問先で「電話のそばに置いています。助かります」との声をいただきました。

身近な目につくところに置いて、役に立ててください。

楽しく心身リフレッシュ

かがやきの丘地域サロン「なごみ会」（浅野謙一代表）は9月3日、町内会館「きらり」で理学療法士 神前祐子さんを講師に招き、健康講座を開催しました＝写真。

まず参加者ひとり一人の体調を確認された後、記憶力ゲームやボール遊び、軽い体操などを楽しく指導していただきました。コロナと暑さでストレスのたまった心身が解きほぐされるようでした。

参加者の皆さんはリフレッシュできましたと元気に帰宅されました。

コロナ対策

手作りフェイスシールド

フェイスシールドを制作するメンバー

志津南アンサングパワー（吉田知津子代表）は、コロナ対策の一つとして１０９個のフェイスシールドを手作りし、各所に届けました。

新型コロナウイルスの感染者のグラフは減るかに見えて、まだまだ先行きが読めません。マスク生活も長くなって来ましたので、マスクと併用もしくは代用に、と、フェイスシールドの作成を計画しました。材料はラミネートフィルム、ドアの隙間などに貼るテープ、平ゴム、プラスナップで、どれも百均などで簡単に手に入るものです。試作品をいくつか作り、ゴムの長さなどを決めました。また、隙間テープを隠す意味もあって「Ｓｈｉｚｕ ３７３ Ｓｈｉｅｌｄ」のシールを貼ったので、ちょっとオシャレにも仕上がりました。

９月５日に開催された福祉セミナーやまち協理事会、民生委員児童委員協議会、健康推進員連絡協議会などに提供しました。更に、やすらぎ学級でお招きする講師の先生方用にも使っていただく予定です。

また９月11日、草津市高穂地域包括支援センター（井上直美代表）にフェイスシールドを寄贈し、大変喜んでいただきました＝写真。

福祉セミナーで職員の方に渡した際、耳が遠くなった高齢者との会話は、口元を見る事で成立している部分があり、マスクでは意思疎通がうまくいかないなどの話を伺いました。

フェイスシールドの数に少し余裕があったため、使っていただく余地があるかと尋ねたところ「ありがたいです」という返事をいただき、この日の寄贈に繋がりました。

フェイスシールド自体は、市販品で簡単に手に入りますが、わざわざ買ってまでというのが本音のようで、長引くコロナ対策の一つとして、有効利用していただけるのではないでしょうか。

記念品届け　敬老の日祝う

志津南学区社会福祉協議会（上田恒章会長）は９月21日の敬老の日に合わせ、学区内75歳以上の高齢者に敬老の日のお祝い記念品（平和堂商品券とどら焼きのセット）を届けました＝写真。

記念品には橋川渉草津市長と草津市社会福祉協議会清水和廣会長からのメッセージが添えられました。

今年の敬老会対象者は９７６人で、昨年の８８９人より87人増え、過去最高となりました。

今年は春から流行した新型コロナ感染症の影響で、昨年度まで取り組んできた志津南小学校における学区統一敬老会を中止せざるをえなくなり、各町代表の社会福祉委員による敬老会実行委員会を開催して、感染症を避けた配布の計画を練りました。

９月21日には予定通り高齢者宅を訪問して記念品を配布し、令和２年度の敬老の日を無事に終えることができました。敬老会での高齢者同士の交流はできませんでしたが、民生委員と社会福祉委員、各町福祉委員が対象者宅を訪問して一人一人の健康状況など安否確認できたことは良かったと判断しています。

高齢者の皆様には今後も健康に留意していただき、来年度に、再びお会いできることをお祈りいたします。

準備から当日の運営まで民生委員児童委員、各町内社会福祉委員、各町福祉委員、福祉協力員の方々に大変お世話になりました。改めて深く感謝するとともにお礼を申し上げます。

（福祉部会部長　大澤良三）

随想

思いのままに

中江藤樹

中江藤樹は江戸初期の方で、日本における「陽明学」の祖と言われ近江聖人とも呼ばれています。

その藤樹は今の高島市に生まれ藩封に伴い四国伊予に赴きますが、故郷に残した母親への孝行が出来ないことを悔やみ脱藩し、そして故郷の人々に陽明学の根本である「心即理」「知行合一」「致良知」の教えを広めていったのです。ここで藤樹の教えのエピソードを紹介しましょう。

ある時、加賀藩の飛脚が藩の公金二百両を京都へ運ぶ途中、近江の馬に乗って宿に着いて荷物を確認してみると何と二百両の金が無い。真っ青になって金を探していたところへ先ほどの馬方がやって来て「鞍の間にこんな忘れ物が挟まっていましたよ」と包みを差し出した。飛脚が中身を調べると二百両の金はそっくりそのまま入っていた。そこで飛脚が礼金を渡そうとすると、馬方は「あなたの落とし物をあなたに届けただけなのにどうしてお礼をもらわねばならないんですか」と言って絶対に受け取ろうとしない。

あまりに立派な態度に飛脚が「あなたのその様な考え方はどこから来たのですか」と聞くと、馬方は別に変ったことをしているわけではありません。うちの家の近くにおられる中江先生という方が塾を開いておられ、村の者がみんなこの先生の話を聞くのを楽しみにしているんです。先生の話を聞いている人ならみんな私と同じ事をしますよ」と答えたのである。また藤樹の教えの師弟影響関係者は佐久間象山・吉田松陰・西郷隆盛・勝海舟・岩崎弥太郎・渋谷栄一・安岡正篤等々、日本建国の立役者となったのです。

今日、世の中では他人の弱みに付け込んで儲けようとしたり、義務以上に権利を主張する傾向が強いのですが、今、藤樹の教え、人材育成、人格形成に役立つ人間学を学びたいものです。

一度高島市の記念館へドライブがてら行ってみてはいかがでしょうか。

（Ｔ・Ａ）

ウォーキング参加者募集

志津南地区健康推進員連絡協議会では、秋の「はつらつウォーキング」を実施します。

▽日時　10月24日（土）
9時〜11時
▽行き先　ロクハ公園
▽申し込み　志津南まちづくりセンター
電話（５６３）６２０６
▽締め切り　10月19日（月）

多数のご参加をお待ちしています。

パソコンの駅

▽パソコンについての相談
▽10月24日（土）
11月26日（木）
13時〜16時
▽志津南まちづくりセンターサロン